

巻頭言

JAL 社長に聞く

(一社)兵庫県民間病院協会理事
(医)明倫会 宮地病院

理事長・院長 宮地 千尋



先日、日本航空の鳥取三津子社長とお話しする機会がありました。全日本病院協会の全日病ニュースの新年号企画として鳥取社長と広報委員長の私と広報委員の浜脇澄伊理事長で鼎談をさせていただきました。鳥取社長は、「女性初」、「初のキャビンアテンダント出身」「異例づくめ」などと報じられ、超多忙で取材は受けられないという噂でしたが、幸運にもお目にかかることができました。

鳥取社長は、女性が社長になることは特別ではない、自分としては一人格として受け止めているとおっしゃっていました。私たちもその通りと女性の理事長は特別ではないと大きく頷きました。日本の一般企業の女性管理職は15.5%で欧米の40%以上に比較し著しく低いです。鳥取社長はJALの女性管理職の比率は29.8%ですが、医療・福祉分野は41.9%と結構高いことに驚かされていました。

航空業界と医療界は、共通点があります。一つ目は「安全・安心」が最重要事項であり、「命を守ること」が目的という点です。JALでは、全員が命を守るための訓練を頻繁に実施しシミュレーションを重ねているそうです。それが、今年の1月2日の航空機の衝突事故に際して全員無事脱出に繋がったのでしょう。医療界では事故防止に向けて航空業界のノウハウを利用していますが、訓練の実施・徹底についてはまだまだの感があります。

二つ目に、人財育成を重要と考えていることも共通です。航空業界も医療界も専門職・有資格者の集団であり人口減少時代の到来に備えるためにも人財確保に努めています。特に安全面も考慮して男性のキャビンアテンダントを増やす方向に働きかけているそうです。

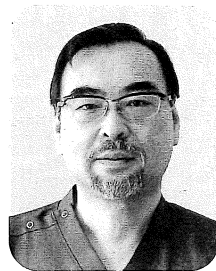
さらに、JALは人口減少による需要減少に対して、人やものの移動を通して地域活性化、社会的価値の創造に取り組み始めているそうです。COVID-19のパンデミック期に人の移動が激減し、ほとんど仕事が無くなった際に様々な会社や地方に出向し、その地域の課題解決やプロジェクトに参加した経験が基になっているそうです。これは、人口減少時代の病院が目指す方向とも一致すると感じました。病院は病気を治すだけでなく、地域の健康と生活を支え、さらに街づくりや地域活性化までも取り組む必要があると思います。

ほとんどの病院経営者はプレイング・マネージャーで経営以外に診療もしているという鳥取社長は、たいへん驚かされていました。息抜きに飲まれることもあるとか。次はご一緒に飲みたいと思いました。

コーヒー好きのひとり言

(一社)兵庫県民間病院協会理事
(医社)緑風会 龍野中央病院

理事長・院長 井上 喜通



コーヒーを飲むことが好きです。

いわゆるスペシャルティコーヒーを好んで飲用しています。

コーヒーの歴史は非常に古く、紀元前のエチオピアにまで遡ります。

カルディというヤギ飼いの少年がヤギを山に連れていった時、ヤギが茂みにある赤い木の実を食べ興奮しているのを見て自分も食べてみたそうです。すると疲れが吹飛び元気になったというのです。それをたまたま目撃した修道僧がその効果に目をつけ人々に伝わったのが最初だということです。

当時は生の葉や豆を煮だした汁が使われていたようですが、後に焙煎により嗜好品として世に拡大流行しました。

1400年半ばにはエチオピア、イエメン、メッカ（アラビアコーヒー）、オスマントルコ（トルココーヒー）～ヨーロッパ、その後、16世紀に全世界へと広まり、日本には18世紀末にオランダ人により長崎・出島に伝わりました。

当時はトルココーヒー式の挽いたコーヒー豆を煮出して上澄みを飲んでいました。

かの渋沢栄一が慶応3年（1867年）に徳川幕府の15代将軍、徳川慶喜の名代としてパリ万博に派遣された徳川昭武に随行しフランスなど欧州を歴訪した際、

「食後、カツフィエーという豆を煎じたる湯を出す。砂糖、牛乳を和して之を飲む、すこぶる

胸中を爽やかにす」

と「航日記」で拡がる切っ掛けとなったということです。

そもそもコーヒー豆とはどういうものなのか、知っておられる方は少ないと思います。

コーヒーの木はアカネ科のコーヒー属（コフィア属）の樹木で花は白く赤や黄色のさくらんぼのような実をつけます。

コーヒー豆といわれる部分にはコーヒーの木の实の中にある部分をさします。

実の中の種を取り出して焙煎したものがコーヒーの煎り豆です。コーヒーの産地は、アフリカ、南米、中米、アジアなど、赤道周辺に集中しており栽培される地域の中でも「産地」がある事もコーヒーの特徴のひとつです。

コーヒーの木は三大原種と呼ばれる3つに分けられます。

高品質で味のバランスのよいアラビカ種、アイスコーヒーやインスタントコーヒー、缶コーヒーに使用されるカネフィラ種、マレーシア、フィリピンの一部でしか栽培されていないリベリカ種です。

アラビカ種が一般的に風味や香りが優れていると言われ流通量も多いです。現在流通しているアラビカコーヒーには、ブルーマウンテン（ジャマイカ）、キリマンジャロ（タンザニア）、コナ（ハワイ）、モカ（イエメン・エチオピア）、マンデリン（インドネシア）、グアテマラ、ブラジル、コロンビアなどが挙げられます。

コーヒーは世界で多くの国で飲用され石油について貿易規模の大きな一次産品です。

カフェインを代表する薬理活性成分を含むことから医学、薬学の研究対象にもなっています。

コーヒーを習慣的に飲んでいる方の心疾患、

脳血管疾患、呼吸器疾患による死亡リスクが低下したという報告もあります。

コーヒーを愛飲していることが健康増進に寄与しているかもと念じております。

